第四章 ルールの外側

ある日、ルールが一つ、静かに壊れた。

それは、誰かが悪いからでも、誰かが間違えたからでもなかった。ただ、ルールが、ルールとして、役目を終えただけだった。

ルールは、ずっと、みんなを守っていた。

ケンカが起きないように、順番を決めた。

泣く子が出ないように、分けかたを決めた。

困る人が少なくなるように、言葉を決めた。

ルールは、悪くない。

ルールは、ただ、そこにあっただけだ。

ルールは、誰かを傷つけるために、生まれてきたわけじゃない。

ルールは、誰かを守るために、生まれてきた。

ルールは、誰かを縛るために、生まれてきたわけじゃない。

ルールは、誰かを自由にするために、生まれてきた。

ルールは、誰かを黙らせるために、生まれてきたわけじゃない。

ルールは、誰かの声を聞くために、生まれてきた。

ルールは、誰かを正しくするために、生まれてきたわけじゃない。

ルールは、誰かを、ちゃんとさせるために、生まれてきた。

ルールは、誰かを、ちゃんとさせる

附 录